



現在の豊平川の流れ
 (写真提供：札幌市環境局)
 右下に見える線路が扇状地の端(扇の曲線部分)に当たります。

日本で唯一！扇状地上の大都市さっぽろ

中央区といえば、高いビルの建ち並ぶ中心市街地をイメージしがちですが、中央区の西半分は山地が占め、国指定天然記念物である円山原始林も含まれます。では、中心市街地には自然は残っていないのかといえば、そうでもありません。札幌駅と大通りをつなぐ地下道「チ・カ・ホ」は、かつてそこを「古豊平川」が流れ、砂や礫を積み上げていった空間です。市街地は札幌を代表する自然の上にあるのです。

急な山間を勢よく川が流れると、水が山を削り、下流へと石や土砂を運びます。川は山間を出たところで流れが弱くなり石や土砂を置き去りにしてたまっていき、扇の形に盛り上がった土地＝扇状地(せんじょうち)を形成します。

日本には大小合わせて490ヶ所もの扇状地がありますが、その上に100万人以上の都市があるのは札幌だけです。なぜ豊平川の扇状地にはこれほど大きな街ができたのでしょうか?その第一の理由は、豊平川が国内でも有数の急流であり、数万年にわたり大量の礫が運ばれ続けて巨大な扇状地

を形成したことです。第二の理由は、水はけのよい安定した台地である扇状地の地下には、大量の地下水が蓄えられていることです。第三の理由は扇状地が海に近い石狩低地帯に作られたために、山、扇状地、低湿地、海という様々な環境が提供されたことです。これらの要因が街と人を支え、札幌を大都市に成長させたのです。

7月19日から始まる「札幌国際芸術祭2014」では「チ・カ・ホ」を会場にした作品群「センシング・ストリームズ」が展示されます。いつも何気なく歩いている地下道で、是非、札幌という都市を造った水の流れ(ストリーム)を、感知(センシング)してみてください。(古沢)

*作品の地質学的背景について札幌市博物館活動センターも情報提供・協力しています。



科学絵本よみきかせ & 学芸員の井戸端サイエンス

8/23(土) 14:00~14:30
 テーマ：氷はなぜ水に浮く?

対象：3歳~大人 申込不要、無料
 会場：札幌市博物館活動センター展示室内
 読み手：絵本よみきかせユニット・月 e t 兎

科学の楽しい
 おはなし
 + 観察、実験!



絵本の題名
 「ひょうざん」「オレンジいろのペンギン」「と・も・だ・ち」

クジラ化石が“寝返り”できない!

↓ 助っ人現る!

感謝

ソリトン・コム株式会社様がボランティアで作業してくださいました。同社顧問で札幌自然史研究会会員の佐藤巖さん、3人の職人の皆様、ありがとうございました。



2014年6月18日午後1時半、2.8トンまでつり上げられるユニック車が地下に到着(病院時代に救急救命室だった場所で化石クリーニングをしているので車が入れるのです)。

複雑な形の岩を慎重につり上げては下ろす作業を何度も繰り返し、少しずつ向きを変えていきました。最後、数トンもある岩を固定させるのに使ったのは木のみ。力学的に考えて・・・というより先に、職人の経験と技と連携プレーに見とれてしまいました。



連載!

札幌っ子 大杉解説員の「じのスケッチブック」

Page9 札幌で優雅に舞うアジアの美 ~学名で芸者 (geisha) と名づけられたチョウ~

6月末に北海道大学の日本語学科の学生の方々々が講義の一環で見学にいらした時、チョウの標本の前で「シータテハは羽にアルファベットのCに似た模様があるのでシータテハと言うんですよ。和名と学名もよく見てみるとおもしろいですよね。」と、私がいつもの通りの解説をしました。すると学生さんに「その下のチョウは学名に芸者についてるんですね。」と言われ、よく見ると *Inachis io geisha* と亜種名が芸者だということに気づきました。和名は「クジャクチョウ」。調べてみると、東アジアに生息するクジャクチョウは亜種 *geisha* として区別する考え方もあることがわかりました。この蝶は目玉模様が大きな特徴で、この目玉模様の外縁の白と内側の青や濃い紫のコントラストが芸者を連想させるのかもしれませんが、「美しい花にはとげがある」の例えもあるように美しいだけではないのです。敵が現れると、羽を開いて目玉を見せて威嚇をする効果も合わせ持っています。また、チョウという虫と蜜を吸うイメージですが、クジャクチョウの成虫は蜜以外に動物の糞の水分なども吸います。その美しさから想像が出来ない意外性が、よりいっそうクジャクチョウを魅力的にみせているのかもしれません。

札幌でも「クジャクチョウ」は夏から秋にかけて平地、山あいなどの草むらや林の近くで普通に見ることができます。

※現在では亜種として区別しない見解が主流のようです。

参考文献：木野田君公2013. ほっかいどう昆虫雑記. faura No.39,47ページ. 有限会社ナチュラリー/平嶋義宏著「新版 蝶の学名~その語源と解説~」(1999, 九州大学出版)/木野田君公著「札幌の昆虫」(2006, 北海道新聞社)/「日本産蝶類和名学名便覧BINRAN」 <http://binran.lepimages.jp/> (2014年7月2日閲覧)

